

# 健 康 起 因 事 故 を 減 ら す

O C H I S   S A S スクリーニング検査の重要性

トラックドライバーにとって睡眠の質は、業務の質を左右する重要なカギを握る。何よりも社員の命を守り、健康起因事故を減らすためには、睡眠時無呼吸症候群（SAS）のスクリーニング検査がやはり欠かせない。

い。SASは自分で  
はわからないケー  
或多いため、NAC  
VAの問診やESO  
テストだけで済ま  
るのでなく、医療  
機器を使って検査す  
る必要がある。

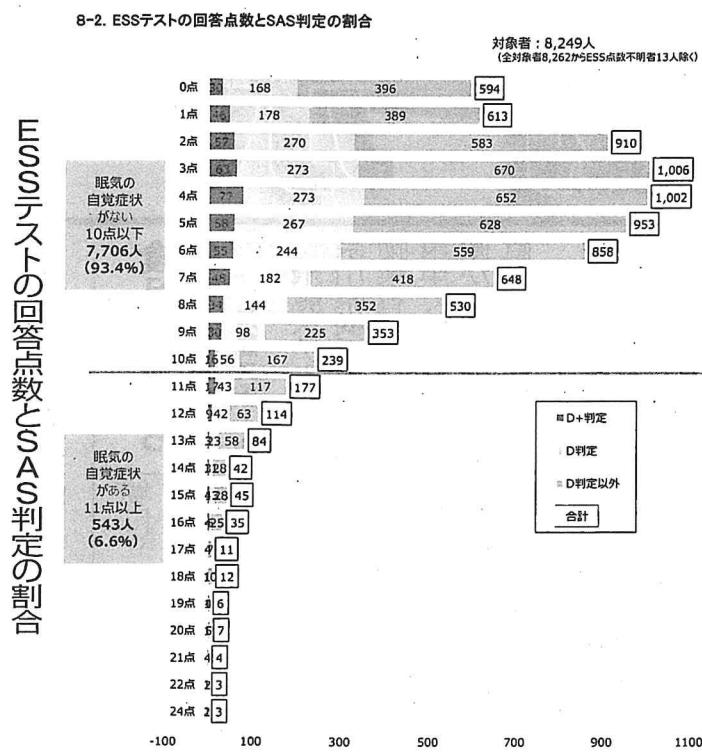
ク(OCHIS)は、  
2020年度SAS  
検査の実績調査概要  
を発表した。今回、  
発表した資料による  
と、トラック関係者  
のSAS検査実施者  
数は8262人（男  
性・7940人、女  
性・322人）で、  
実施者の平均年齢は

46  
46.5歳。パルスオキシメータの結果によると、実施者のうち2861人（34.7%）が精密検査の対象（D・D十判定）になった。またD判定者のうち、重症とされるD十判定者は558人で全体の6.8%だった。

27 34  
• 1% 中等症が  
• 7% だった。  
トフツク関係者の  
結果に目を向ける  
と、体格指数（BMI）  
I) が25以上の肥満  
者の割合は、82%  
2人（全対象者から  
年代不明者10人を除  
く）中、2929人  
（5.5%）だった。

I 25未満の 12・6倍  
と高い。  
さらに、脛間の眠りに関する自覚症状からSASの可能性を調べる「ESSテスト」と、D判定者数の関係性を示すデータでは、自覚症状の有無にかかわらずどちらも約35%である。

SASは、治療をせずに放置すると今にかかるる合併症（高血圧、狭心症、心筋梗塞、脳梗塞など）を引き起しそうもそれもあり、これこの疾病は健康起因病の故の主な原因でもあります。全日本トラック協会では、「ドライ



・5歳。パルスオーメータの結果になると、実施者のうる人861人(34%)が精密検査の象(D+D+判定)になった。また判定者の中、重い症例は58人で全体の6.8%だった。バス・タクシー・トラックで精密検査を受けた757人のうち、687人(90.8%)がSASの確定診断を受けており、CPAPでの治療が必要と診断されたのは、757人のうち374人(49.4%)。SAS患者757人の重症度は最も多く

トランク関係者の割合も、D+判定者の割合も、B.M.I.30以上はB.M.I.と急増するうえに、肥満者の3倍以上と急増するうえに、D+判定者の割合も、B.M.I.30以上はB.M.I.と7%だった。中等症が結果に目を向けると、体格指数(B.M.I.)が25以上の肥満者の割合は、82.5%で、2人(全対象者から年代不明者10人を除く)中、29220人(35.5%)だった。40代以上の肥満者は、各年代のD・D+判定者は50%を上回り、肥満および加齢に伴い有所見率は上昇している。

I 25未満の12・6倍と高い。さらに、脛間の眠りに関する自覚症状からSASの可能性を調べる「ESSテスト」と「D判定表」の関係性を示すデータでは、自覚症状の有無にかかわらずどちらも約35%で有所見がみられた。眠気の自覚症状の有無と判定結果にはほとんど相関関係がないことが明らかになっている。

SASは、治療をせずに放置すると、にかかる心筋梗塞や脳梗塞など)を引き起こすことがあります。それもあり、「これからの疾病は健康起因疾患の主な原因でもあります。全日本トラックドライバー協会では、「ドライバーに睡眠時無呼吸症候群(SAS)クリーニング検査を受診させていただけますか?」リーフレットを作成し、事業者にSASスクリーニング検査の重要性を呼びかけています。

また、OCHICではSAS対策として、veオンラインセミナーを開催し、ドライバーの健康と安全の確保を訴えています。(木村麻理奈)